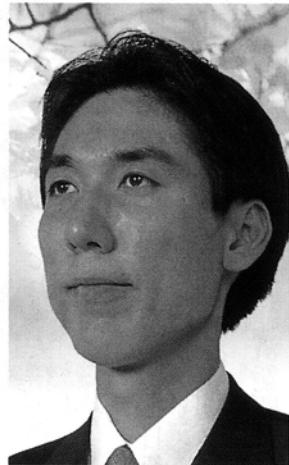


城内 実の視点! 時代を考察する(8)

—安倍晋三首相の辞意表明と
自民党総裁選—



前衆議院議員・拓殖大学客員教授 **城内 実**

九月十二日の午後、突然安倍首相が辞意を表明した。内閣改造をすませ、所信表明演説をされた直後のことであつた。さあこれから代表質問といふ矢先のことで、タイミングとしてはあまりにも悪すぎる。この辞意表明の背景にはよほどのことがあつたに違ひない。

一年前の自民党的総裁選の時にあれだけ「安倍さん、安倍さん」と言つて大騒ぎしたひとたちが参議院選挙の自民党的敗北以降、手のひらをかえしたように、安倍批判をはじめたり、沈黙したりした。安倍首相の今回の辞意表明でさらに加速した。いつたいなんなのだ。

安倍首相は、KY（空気が読めない）だとか、リーダーシップがないだとか罵詈雑言を浴びせられている。私のような人間はこういう時こそ、おまえは正気か？と言われようとも、「安倍晋三先生を十年後に再び総理大臣にする会」を立ち上げたいような衝動にかられる。

今回の辞意表明については、健康不安説や対米関係だとか、週刊誌に書かれた相続税の問題だとかいろいろ言われているが、真相は永久に闇に葬られるだろう。むしろ、そんなことはどうでもいい。要は、いろいろな不幸が度重なつただけのこ

とである。だからこそ、まだ若い安倍首相にも「再チャレンジ」の機会を与えるべきではないかと考えている。

九月十七日現在、自民党的総裁選が行われている。この原稿が世に出る頃には新しい総理総裁が決まり、閣僚の人選もすんでいることであろう。

しかしそれにしても、たつた一晩で総裁候補として最有力の麻生太郎氏から福田康夫氏にいつきに党内の流れが変わったのには驚いた。勝ち馬に乗ろうとする行動は分からぬでもないが、「バスに乗り遅れるな」という感じで間髪入れずに福田氏になだれこむのはいかがなものかと思う。

お二人のそれぞれの政策発表もこれから、各地演説会もこれからという時点での結論を出せば、国民のみなさんから「出来レース」だとか、「国民不在」と批判されてもいたしかたがないであろう。麻生太郎氏も福田康夫氏も、ともに経験豊富なお方でどちらが総理総裁になつても無難に職責を全うされることと思う。しかし、福田氏が断然優位であるこういう時こそ、私は逆に麻生太郎氏にがんばつていただきたいと思い、おもわず応援したくなる。小泉前首相もそうであつたが、勝ち目がなくとも総裁選挙に打つて出る敢闘精神はやは

り尊敬に値する。

地方の党員票がどれだけ麻生太郎氏に流れるか分からぬが、いずれにしても麻生太郎氏は厳しい戦いを強いられるであろう。

これまでに、本欄で繰り返し主張してきたことであるが、安倍晋三首相におかれでは、「戦後レジームからの脱却」も大事かもしれないが、それよりも前政権から継承している「構造カイカク路線」からの脱却を断行していただきたかった。

総裁候補の麻生太郎氏も福田康夫氏もこれまでの改革を進めていくとの立場をとっているが、両者とも格差の是正や地方への配慮を強調しており、実質的には構造改革路線を修正しようとしていることが分かる。

構造カイカク路線の最たるもののが、郵政民営化であるが、十月からの公社の民営化で各種手数料が大幅に値上げされる。なぜかこのことをマスコミはとりあげようとしない。例えば、振替口座サービスが従来十万円まで百五十円から三万円以上三百三十円に、電信現金払が百八十円から三段階あつたものが一律六百三十円、公共料金払い込みが一律三十円から三万円以上二百四十円に、定額小為替が一枚十円から百円などと、のきなみ二

倍から十倍の手数料の増加である。こんなことは最初から分かり切ったことであるが、真相を知らされていない国民はきっとダメされたことに気がつくであろう。

また、来年四月から高齢者の病院窓口における医療負担が増大する見込みである。医療改革で日本は、民間保険中心のアメリカ型の制度を取り入れようとしているが、アメリカの医療のおそるべき格差の実態については、マイケル・ムーア監督の最新作『シッコ』を見れば一目瞭然である。構造カイカク路線からの脱却が急務である。

最後にいつ解散総選挙があるかについて述べてみたい。福田康夫氏は民主党との話し合い解散もありうると述べた。これだと国民の生活に支障を來すことがないようとにいうことで、予算成立後の来年四月の中・下旬頃になるということになる。これに対して、麻生太郎氏は、話し合いによる解散は「私の感性とは違う」と述べ、否定的な考えを示した。

十月末に期限が切れるテロ特措法の延長を巡り与野党の攻防が予想されるが、新内閣成立のいわゆる「ご祝儀」で自民党の支持率も持ち直し、国民の声を背景になんとかテロ特措法が通り、政権

が安定していく可能性がある。そうなると、やはり解散は早くて来年の四月。いずれにせよ、衆議院の任期はあと二年しかない。解散はいつあってもおかしくない。

閣僚の不祥事がまたまた飛び出し、世論の流れがいつきに変わればどうなるか分からぬ。政界は一寸先が闇とはけだし名言である。

プロフィール

城内 実（きうち みのる）

昭和四〇年 四月一九日生まれ

平成元年

東京大学教養学部国際関係論分科卒業し、外務省に入省

平成二年

在ドイツ日本大使館勤務

平成九年

天皇陛下、总理等のドイツ語通訳官

平成一四年

外務省を退官し、公募に応募

平成一五年

衆議院議員初当選（無所属）

平成一六年

党改革実行本部幹事

平成一七年

農林水産委員会委員、環境委員会委員、郵政民営化特別委員会委員

平成一七年

第四十四回衆議院選挙にて七四八票差で惜敗

平成一八年

拓殖大学客員教授

城内 実

ホームページアドレス

<http://www.m-kiuchi.com/>